

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム（第3回）
議事次第

1. 日 時 平成28年2月16日（火）13:00～15:30
2. 場 所 文部科学省3階3F1特別会議室
3. 議 題 (1) 高等学校の地理歴史科及び公民科の改善充実について
(2) その他
4. 配布資料
 - 資料1 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおけるこれまでの主な意見（未定稿）
 - 資料2 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム（第2回）配布資料（抜粋）
 - 資料3 社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおけるこれまでの主な意見（未定稿）
 - 資料4 社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおけるこれまでの主な配布資料
 - 資料5 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項（高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム（第1回）配布資料）
 - 資料6 基軸となる問いに着目した「歴史総合（仮称）」の構成イメージ（たたき台案）
 - 資料7 高等学校学習指導要領における歴史科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）
 - 資料8 高等学校学習指導要領における地理科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）
 - 資料9 「公共（仮称）」の方向性として考えられる構成（たたき台案）
 - 資料10 高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）
 - 資料11 特別支援教育、情報に関わる資質・能力、健康、安全等に関わる資質・能力に関する議論について
 - 参考資料1 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム委員名簿
 - 参考資料2 社会・地理歴史・公民ワーキンググループ委員名簿

基軸となる問いに着目した「歴史総合(仮称)」の構成イメージ(たたき台案)

平成28年2月16日
 教育課程部会
 高等学校の地歴・公民科科目の
 在り方に関する特別チーム
 資料6

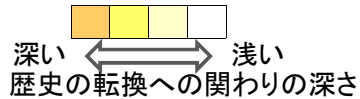
- ・現代の社会にみられる諸課題のおこりや推移に関わる事柄について
- ・近現代の歴史の大きな転換(「～化」)に関わる事柄を中心に
- ・自国のこととグローバルなことが影響し合ったりつながったりする歴史の諸相に着目して
- ・「基軸となる問い」やそれに基づく「具体的な問い」の設定と追究を通して
- ・歴史の転換において「基軸となる問い」同士の関係性があることや焦点となる問いがあることに留意して



諸資料を適切に活用しながら、歴史を考察する手立てを用いて追究し、「歴史の学び方」を身に付ける。

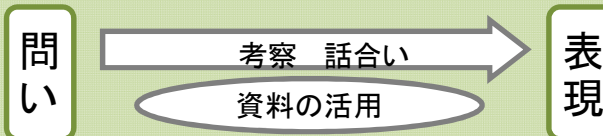
現代の諸課題		経済に関する諸課題	政治に関する諸課題	国際社会に関する諸課題	社会・文化に関する諸課題	……
近代化	基軸となる問いの例	欧米や日本における急速な工業化は、世界の情勢にどのような影響を及ぼしたか？	政治上の革命は、経済や社会のどのような変化と関係しているか？	欧米諸国や日本が海外に向かった理由は、以前とどのように違っていたか？	人々の権利をめぐる社会運動は、社会にどのような影響を与えたか？	
	具体的な問いの例	Q …… Q ……				
大衆化	基軸となる問いの例					
	具体的な問いの例					
グローバル化	基軸となる問いの例					
	具体的な問いの例					

* 学習課題によって、取り上げる時期や地域を広げて設定するなどの工夫が考えられる。



新必修科目「歴史総合(仮称)」

- 現代の諸課題の背景にある歴史を、グローバル化につながる近現代における歴史の転換に着目して追究するとともに、日本及び世界の歴史の考察に関わる概念を理解する。
- ◎ 単元の基軸となる本質的で大きな問いを設け、諸資料を適切に活用しながら、歴史を考察する手立てを用いて追究し、「歴史の学び方」を身に付ける。



◎「歴史総合(仮称)」で習得した「歴史の学び方」を活用する

現行科目 「世界史B」

- (1)扉
- (2)形成
- (3)交流と再編
- (4)結合と変容
- (5)地球世界の到来

新選択科目 「世界史(案)」

現行の科目の学習内容を一層構造化して、「歴史総合(仮称)」で培った歴史の学び方を活用する。

- 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開を広く深く考察する。

新選択科目 「日本史(案)」

- 我が国の歴史の展開を広く深く考察する。

現行科目 「日本史B」

- (1) 原始・古代
- (2) 中世
- (3) 近世
- (4) 近代
- (5) 両大戦期
- (6) 現代

※ 歴史用語の在り方について、研究者と教員との対話を通じて、歴史を考察する手立てに着目するなどして構造化を図る。

構成原理

「地理総合（仮称）」は、主題を基に課題解決的な学習により、社会で生きて働く地理的実践力の育成の場として、「新選択科目」は、地理総合で習得した地理的な技能、見方や考え方を基に、世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、現代日本に求められる国土像の在り方について展望することにより、高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。

現行地理B科目

地理B

- (1) 様々な地図と地理的技能
 - ア 地理情報と地図
 - イ 地図の活用と地域調査
- (2) 現代世界の系統地理的考察
 - ア 自然環境
 - イ 資源、産業
 - ウ 人口、都市・村落
 - エ 生活文化、民族・宗教
- (3) 現代世界の地誌的考察
 - ア 現代世界の地域区分
 - イ 現代世界の諸地域
 - ウ 現代世界と日本

資質・能力

既得の地理的な技能、世界のグローバル化や持続可能な社会づくりといった考え方などを踏まえて

移行

- 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解 など

新必修科目で身に付けた学習の成果を活用し、探究を深める科目

拡充

- 世界の諸事象を系統地理的に考察する力や、世界の諸地域を地誌的に考察する力 など
- 世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度 など

- (1) 地図と地理情報システムの活用
- (2) 国際理解と国際協力
- (3) 防災と持続可能な社会の構築

新必修科目「地理総合」（仮称）

新選択科目(案)

(1) 現代世界の系統地理的考察

事象からのアプローチ

- ア 自然環境
- イ 資源、産業
- ウ 人口、都市・村落
- エ 生活文化、民族・宗教 等

⇒系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察する。
⇒それぞれに環境問題、食料問題などの関連諸課題を追究する。

(2) 現代世界の地誌的考察

地域からのアプローチ

ア 現代世界の地域区分

⇒地域の概念、地域区分の意義を考察し、実際に地域を区分する。

イ 現代世界の諸地域

⇒地誌的に地域の構造や変容などを考察する。
⇒地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。

(3) 現代日本に求められる国土像

総合的な地理的アプローチ

⇒現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望する。

「公共（仮称）」の方向性として考えられる構成①（たたき台案）

平成28年2月16日
教育課程部会
高等学校の地歴・公民科科目の
在り方に関する特別チーム
資料9

新必修修科目(案)

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

倫理的主体となること

ア 公共的な空間に生きる私たち

- ⇒今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、
- ・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること
 - ・①「自分らしい生き方」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通して自らを成長させること、
 - ・②人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うこと、
- 両者によってよりよい集団・社会を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む) について学んではどうか。

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

- ⇒社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる、
- ①「行為の結果における効用として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」、
 - ②「(行為の結果よりも、)行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」、
- について理解させる。その際、
- ・人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること
 - ・両者ともに活用し、自分も他者とともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要であること
 - ・行為の結果における効用について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること
 - ・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること
- などを取り上げてはどうか。

(指導のねらいを明確にした上で、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れてはどうか。その際、(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」で取り扱う課題と連動した課題を取り上げてはどうか。)

<参考>

・学校における道徳教育は、…人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科の属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。（「高等学校学習指導要領総則第1款 教育課程編成の一般方針」）

公民科目新設の方向性として考えられる構成②（たたき台案）

新必修修科目(案)

「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

- ⇒小・中学校社会で習得した法や政治、経済等に関する知識等を基盤に、社会的事象の見方や考え方を働かせながら、(1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方等を活用して現実の社会的事象について考察、追究する。
- ・社会を構成する主体となるために、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、自立した主体として生きるために必要な知識を身に付ける。

ア 法的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの(個人の尊重を前提に、協働関係の共時性と通時性に関する比較衡量などを通して、人間の尊厳と平等、社会の安定性をともに成り立たせること)

<題材の例> 立憲主義、民主主義、自由・権利と責任・義務、相互承認、市場、公正な手続き、参加、男女共同参画…

<考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動…

イ 政治的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの(議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと)

ウ 経済的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの(公正なルールを作ってその下で経済活動を行うことを通して、個人の尊重とより活発な経済活動をともに成り立たせること。またその補完を政府等が担っていること)

キャリア教育
の中核機能

エ 様々な情報を発信・受信する知的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの(情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えていくことを通して、望ましい情報社会を築くこと)

情報リテラシー…

<題材の例> 政治参加、世論の形成、国際貢献、国際平和…

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題(労働関係法制を含む)…

職業選択、個人と企業の経済活動における役割と責任、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり…

金融の働き、契約、消費者の権利や責任…

情報モラル…

情報リテラシー…

<考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの準備と振り返り…

※ 様々な主体となる個人を支える家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

<留意点>(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」において課題を探究する学習を行うことに留意し、主体相互の有機的な関連を図るとともに、取り扱う題材の精選に努めることが求められる。

公民科目新設の方向性として考えられる構成③（たたき台案）

新必修修科目(案)

「公共」(仮称)

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

別紙

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造

イ 持続可能な社会

ウ 我が国と国際社会

<題材の例> 地域の活性化、安全に配慮したまちづくり、持続可能な社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和・・・などについて探究

家族・家庭、消費者等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科と連携

<留意点>(1)「公共」の扉、(2)「自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために」の学習を踏まえて(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」における課題を探究する学習が行われることに留意し、(1)、(2)においては、(3)で課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めることが求められる。

新必修科目「公共」(仮称)の構成原理

- 現代社会の課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得する。
- 立場や文化によって意見の異なる様々な課題について、その背景にある考え方を踏まえてよりよい解決の在り方を協働的に考察し、公正に判断、合意形成する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な資質・能力を養う。

新選択科目
「倫理」(仮称)

新選択科目
「政治・経済」
(仮称)

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を育み、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める学習を充実

自立して思索を行うとともに、他者と共に生きる主体を育む「倫理」

※思想史的知識の習得に終始しないようにする。

国家・社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」

※制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共」(仮称)を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることもできることから、「現代社会」については科目を設置しないことも含め検討する。

高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）

<科目構成の考え方>

- ・新必修科目を前提に、自己の在り方生き方と他者などとの関わりを判断するための基準となる考え方を活用し、探究を深める科目構造をとる。
- ・思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。

現行公民科目

倫理

(1)現代に生きる
自己の課題

(2)人間としての
在り方生き方

- ア 人間としての自覚
- イ 国際社会に生きる
日本人としての自覚

(3)現代と倫理

- ア 現代に生きる
人間としての倫理
- イ 現代の諸課題と倫理

一部移行

**新必修科目で育まれた
資質・能力を活用し、
思索を深める科目**

拡充

資質・能力

○現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚

○様々な課題を捉え、より深く考察するための概念や理論を、古今東西の幅広い知的蓄積を通して習得し思索する力

○課題解決のための論理的な思考力

(1)「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新必修科目
「公共」(仮称)

新選択科目(案)

新選択科目
「倫理」(仮称)

(1) 自己の課題と人間としての在り方生き方

⇒自己の生き方を見つめ直し、自らの悩みや体験を振り返り、「公共(仮称)」で取り扱った社会との関わりに加えて、自己の課題を他者、集団、生命や自然などとの関わりを視点として捉え、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、哲学に関わる対話的手法等も用いて多面的・多角的に考察し、思索を深める。

(考察の対象)人間存在。愛、正義、幸福などの倫理的な価値

(2) 現代の諸課題と倫理

探究

⇒現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、自己の生き方の確立を図るために探究する。

(課題例)生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉、科学・技術、経済社会など

高等学校学習指導要領における公民科目の改訂の方向性として考えられる構成（案）Ⅱ

<科目構成の考え方>

・小・中学校社会で身に付けた社会的事象の見方や考え方を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断の基準となる概念を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題やグローバル社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家・社会の形成により積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

新必修科目
「公共」(仮称)

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

現行公民科目

政治・経済

(1) 現代の政治

- ア 民主政治の基本原則と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

(2) 現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

(3) 現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

資質・能力

○グローバル社会において、国家・社会の形成により積極的な役割を果たそうとする意欲や態度

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○社会に見られる複雑な課題や問題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決策を構想する力

○構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成に向かう力

新選択科目(案)

新選択科目
「政治・経済」(仮称)

(1) 民主政治の基本原則と現代の経済

⇒民主政治や法、現代経済を貫いている基本原則を踏まえて、複雑な現代政治・経済の特質を捉えるとともに、その解決策を探究する。
(課題例) 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障… **探究**

(2) グローバル化が進む国際政治・経済

⇒現代の国際政治・経済に関わる概念や理論、複雑な国際政治・経済の特質を捉えるとともに、その解決策を探究する。
(課題例) 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済における日本の役割、地球環境と資源・エネルギー問題… **探究**